



1月14日、時刻は18時。気温は3℃。雪がちらつく桂川町土師に「とへとへ」という掛け声が響きわたる。

掛け声の出所である笠や蓑を被った若者たちが、道を練り歩き、家々を訪ね歩く。家人は若者を迎え、タオルや洗剤などの「お年賀」を受け取ったかと思うと、バケツに入った水を若者たちにバシャリ。若者たちは、「今年もよい年でありますように」と声を揃え、また「とへとへ」と声をあげ、次の家へと向かう。

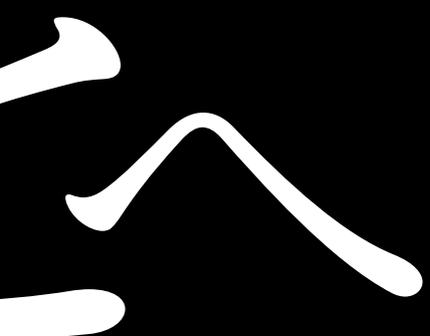
桂川町土師地区では、毎年「とへとへ」と呼ばれる行事が行われている。小正月前日の14日に、来訪神に扮して家々を訪問し、その際に水をかけられる行事だ。

来訪神を迎える行事は全国各地で行われているが、神様に水をかけるという行為は珍しく、テレビなどでも度々紹介されている。

かつてはどの家でも当たり前だった正月に神様を迎える風習。現在は「お年玉」や「雑煮」などがその名残として残っているが、町内の地域行事として残っているのは、「とへとへ」「もぐら



土師一区



interview 「とへとへ」という来訪神

古 来から日本では、正月には神様が

来訪してくると信じられていました。元日は年神様が豊作や子孫繁栄などの幸せをもたらす日だったので。

桂川町文化財保護審議会 委員
嘉飯山郷土研究会 会長
香月 靖晴さんのお話
(飯塚市平塚)

来訪神を迎える風習は全国各地に残っていて、有名なものは秋田県の「ナマハゲ」です。他にも、「トシドシ」「ホトホト」「コトコト」などと呼ばれる行事が残っています。

土師地区のとへとへは、途絶えた時期があるものの、戦前から今なお継続して行われている数少ない来訪神の行事です。

水をかけるのは、正月を迎える前に、禊として年内の悪いものを水で流すという意味合いのほか、「田植えのとき、水がたくさんありますように」という五穀豊穡の祈りからきているのではないかと考えられます。

また、「とへとへ」という言葉は、古語「訪ふ」や戸を叩く音から来ているのではないかと思います。文献がなく定かではありません。



※とへとへの由来や内容には諸説あります